

# 世界遺産登録決定!

## 「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群

Sacred Island of Okinoshima and Associated Sites in the Munakata Region



### 古代祭祀と信仰の継承

九州本島から約60キロメートル離れた「神宿る島」沖ノ島は、4世紀から9世紀末ごろまでの日本列島や朝鮮半島などの東アジア諸国の活発な対外交流に伴って行われた、航海安全のための古代祭祀の様相を伝える希少な存在です。沖津宮(沖ノ島)、中津宮(大島)、辺津宮(九州本土)から成る宗像大社は、宗像三女神への信仰の場として、古代豪族宗像氏の人々によって育まれた沖ノ島を崇拝する伝統を、今日まで守り伝えています。

### 全構成資産が一括で登録

7月9日にポーランドのクラクフで行われた第41回ユネスコ世界遺産委員会における審議の結果、本遺産群8つの構成資産は、文化的・歴史的に結び付いた一体のものであり、遺産群の価値を理解するために必要であるとして、申請していた全ての構成資産が世界遺産に登録されました。日本の世界遺産としては21件目(うち文化遺産17件)の登録となりました。